

●令和4年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「これからの社会の為に」

【学校名・学年】武庫川女子大学附属高等学校 1年

【氏名】西本 釉

税金制度とは何なのか。この国には、私たちが生活していく上で必ず払わなければいけないお金がある。この国の憲法では、「国民は法律の定まるところにより、納税の義務を負ふ。」とある。ただ、私たち子どもは税金について知らなさすぎるのではないか。私も税金についてよく知らなかったし、知ろうとしなかった。その上、「なんで税金なんて払わなければいけないんだろう」と思っていた。なぜなら、私たちが営んでいる日々の生活を、当たり前のもので受けとめてきたからだ。ある日、他の国の子ども達が、学校へ行くために毎日危険な道を何時間も歩いていることをテレビで知った。子どもたちは、それでも勉強したいから通っていると笑顔で話していた。私は強い衝撃を受けた。私たちが当たり前のように通っている、綺麗な舗装された道。それがどんなに恵まれていることなのか。私はこの道がどうやって作られているのか疑問に思い、調べてみた。そして、それは私たちが払っている税金によって作られていたものと分かった。それが、税金制度について興味を持ったきっかけだった。

税金の使い道は多くに亘る。身近なものとして、ごみ処理費用や教育費、医療費の一部負担などがある。もし、税金制度がなかったら？ゴミを収集できなくなり、町が汚くなる。勉強したくても、教科書や勉強机などを自己負担しなければいけない。病気になっても、医療費を全額支払わなければならない。そんな社会で、私たちは安全で快適に過ごしていけるだろうか？そう考えた時、税金制度というものがどれだけの恩恵を私たちに与えてくれているかを強く実感した。

何年前か前、消費税が8%から10%に引き上げられた。そして、政府への批判が集中する中で今度は10%への引き上げが決まった。この背景には、やはり少子高齢化が関係していると思う。高齢化が進むと、税金が使われている医療や介護に必要な費用が増えていく。しかし、今のままの税金制度では、私たちの生活を支えることは難しくなっている。私たちが政治に興味をもち、税金の使い道をしっかり示してくれる人に政治を任せるため税金制度を理解するのは必要不可欠なのである。

税金は、私たちの生活と健康を守ってくれるすばらしい制度だ。それを当たり前とは思わず国民一人一人が幸せで快適な生活を送っていくためにも、それぞれ自分の責任を理解し、様々な形で政治に参加していくことが、この国をよりよくする一番の近道なのだと私は思う。